

民間建設工事の適正な品質を確保するための指針が策定されました ~受発注者間の信頼関係に基づく取組の推進~

国土交通省は、民間建設工事について発注者と、受注者等の関係者が施工上のリスクに関する事前協議と情報共有を行い、円滑に工事を進めるための指針(民間工事指針)を初めて策定しました。

○趣旨

民間建設工事の適正な施工を図るために、請負契約に先立ち具体的な施工上のリスクについて受発注者間で情報共有、リスク負担について適切に協議を行うことが必要。リスクの協議に関する基本的な枠組みを民間工事指針としてとりまとめることで、円滑な工事施工が図られ消費者が安心して住宅購入や施設利用を行うことが期待できる。

○指針の構成

●事前調査の重要性

調査会社の調査結果や専門的知見を活用して必要な事前調査を実施。

●必要な情報提供の実施

施工者が工事経験等を基に専門的な見解を提案し、受発注者間で適切に情報共有。

●関係者間の協力体制の構築

協議項目について施工上のリスクに関する協議を行い、共通認識を持った上で請負契約を締結。

○事前協議の項目(12項目)

●地中関係

(支持地盤深度／地下水位／地下埋設物等)

●設計関係

(設計図書との調整／設計間の整合)

●資材関係、周辺環境

(近隣対応／騒音振動／日照阻害等)

●天災(地震、台風等)

●その他(法定手続き)

協議事項の例

支持地盤深度に関する基本的考え方

適切な事前調査を行っても想定できない様なリスクが発現し、杭長の再設計が必要となる場合の追加費用や工期延長の負担等について、予め受発注者間で協議を実施。

詳しくは国土交通省ホームページをご覧ください。

ワンポイント 健康コラム 夏風邪対策をしましょう!

夏風邪とは夏にひく風邪のこと…

そう思っている方も多いのではないでしょうか?

夏風邪の原因であるウイルスは高温多湿の環境を好み、発熱に加えて腹痛や下痢、ノドの痛みなどが特徴的な症状です。

<対処>

下痢を起こすと脱水症状になりやすいので、水分を多めに摂ることが重要です。食事は、おかゆや野菜スープなど胃腸にやさしく、ノドの通りの良いものを摂るようにしましょう。ノドの痛みには、軽いうちなら「濡れマスク」も効果的です。ただし、夏風邪のウイルスは多湿で不潔な環境を好むので、マスクは早めに交換し、常に清潔なものを使用しましょう。水分を十分に摂ってぐっすり眠り、体力の回復を心がけましょう。



<予防>

夏風邪は経口感染が多いので、家族に患者がいる場合は家庭内の手洗いうがいをし、特にトイレや洗面所のタオルの使いまわしは避けましょう。免疫力の低下も夏風邪の原因のひとつです。睡眠不足や冷え過ぎによるストレスにも注意が必要です。食事面では、発汗をうながし免疫力を高めるショウガやニンニクを使った料理が体力維持にはぴったりです。食欲がなく肉類などが重く感じたときは、ヨーグルトなどで動物性たんぱく質を補うようにしましょう。



<手足口病>

夏風邪と関連して注意したいのが手足口病です。手足、背中に水泡ができる病気で、口には口内炎がみられます。以前は子どもだけの病気と思われていましたが、最近は大人にもみられることが報告されています。子どもの場合はほとんどが軽症で済みますが、大人の場合は痛みがあたり高熱がでて寝込むケースもあります。症状は1週間ほどで治りますが、仕事や日常生活にも支障をきたすので注意が必要です。大人の手足口病の大半は子どもからの感染です。飛沫感染があるので咳やくしゃみが出てる場合はマスクをさせて感染を防ぐ心がけも大切です。



風邪で夏休みが終わってしまった…

ということがないよう、日ごろから予防をしていきましょう!

経理マンが行く

事件について

蝉の声があちらこちらから聞こえ初めできました。梅雨もあけそうですね。今年の夏は猛暑らしいので体調管理を万全にしてください。

さて、先日起きた「津久井やまゆり園」の事件。当社が津久井に近い場所にあることや、知り合いの友人が勤務していたなど、とても身近に感じています。

事件当日の朝4時頃、消防車と救急車がサイレンを鳴らしながら何台も自宅前を通っていました。「大きな火事なんだな」と思ったくらいでしたが、あまりにも何台も救急車両が通るのでそのまま寝付けず起きてテレビをつけて事件を知りました。

元々「津久井やまゆり園」は昭和39年に今相模湖に近い環境の良い場所に開園されました。生活介護を必要とする方が殆どの為、当時は近所の方達の理解も得られず、障害者を偏見の目でいた為に迷惑施設と見られていたようです。

それを近所の方達の理解を得られるように、挨拶、街のゴミ拾いなど何十年もかけて、近所の方が声を掛けてくれるような今の津久井やまゆり園になったそうです。

「意思の疎通が出来ない人達」と犯人は言っていたそうですが、先ほどのニュースでは首を切られて重体だった障害者の被害者が意識を取り戻したとの報道の中で、最初に発した言葉が「助けて」という言葉だったそうです。

普段あまりしゃべらない被害者が言葉を発した事に職員は驚いたようですが、それほど怖い体験だったのです。意思の疎通ができないなんてとんでもありません。身体は不自由でも、口が聞けなくても、無表情でも、ちゃんと見て判っているのです。

これから、色々な事が明らかになっていく中で、今後の障害者施設の在り方、措置入院等の法律の問題等、さらに高齢化社会になれば、障害者の介護も今以上に必要になるでしょう。犠牲になられた方達の為にも、犠牲を無駄にせずこれを教訓に前へ進めたらと思います。

犠牲になられた方、また、ご遺族の方に対しましては、心からご冥福とお悔やみを申し上げたいと思います。

また、負傷された方に対しましては、一刻も早い回復を願っております。
二度とこのような悲惨な事件が起らぬよう、願ってやみません。

